

令和7年度 第1回 錦田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

事業名	「農業と観光のハーモニー」DAPPE project				
事業の概要	<p>従来の行政の枠組みを超えた本市の特性を活かした「農業・農産物」をツールとした多様な観光推進事業を推進するため、その中心的な役割を担う一般社団法人(仮称)錦田市観光物産協会を設立し、市直売所のリニューアルに併せ、観光客が市内を観光する足掛かりとなる情報発信機能を持たせ、農業体験事業やイベント等、誘客につながる取り組みを進めていく。</p> <p>農業・農産物をツールとした観光コンテンツの創出、それらを活用した市内回遊・滞留の仕組みづくり、地域ブランドを活かした商品開発やその販路拡大を進めていく。</p> <p>また、戦略的な情報発信を展開することで、錦田市への観光入込客数の増加を目指す。実需者である観光客と農業生産者との交流の中で、ただ生産するのではなくマーケット・イン思考な農業をつくり、地域の「稼ぐ力」の向上とさらなる雇用の創出を目指していく。</p> <p>さらに、流行に敏感な都会の若者をターゲットとした交流事業を実施することで、地元住民には気づかない農産物の付加価値の付け方を模索するとともに、「稼げる農業」に興味のある都会の若者の移住等に繋げていく。</p> <p>さらに、市内の他の事業者・他業界(直売所や飲食店組合等)と連携し、点の取組でなく、面の取組として、交流人口の増加や地域活性化の相乗効果を高めていく。</p> <p>加えて、都市部女性と農業者の交流事業やプロモーションを通じて、都市部女性の取り込みや交流人口拡大を行う。</p>				
事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について			
評価	評価に対する意見・理由		今後の方針	今後の方針を選んだ理由	
①取組事業 がKPI達成に 有効であった	11	<p>・農業のブランド力の向上と流通促進戦略について、メロンの生産が日本一であるのに、まだまだ認知度が足りないと思うので、もっとスマセディアで取り上げていただきたい。</p> <p>・農業の担い手の育成と経営環境の改善について、資材の高騰などの影響を受けており、補助金等を検討していただきたい。</p> <p>・小中高に農業体験事業をもっと幅広く体験してもらいたい。</p> <p>・国内外へ販路拡大のための取組は良いと思います。今後、採算性が取れるかが重要です。また、対象国についても範囲を広げて、サンプリングをしてはどうかと思います。</p> <p>・農業産出額は伸びており、新規就農者はR2に143人、R6に230人と伸びているようです。</p> <p>・事業の実施によりKPIの向上が図られたと考えています。</p> <p>・海外への販路拡大では、アジアの富裕層向けに海外スーパー・デパートなどとの提携も必要ではないか。スマート農業については、設備投資などの面がネックになっており、なかなか進んでいかない反面、次々に新しい技術が世の中に出でてため研修会の必要性があり効果的である。人口の流出については、全国的な問題であり、単なる奪い合いにならないよう方向の変換は評価出来る。地元学生に地元に残ってもらえるような奨学金等の給付制度も必要ではないか。また、地元の農業後継者や就農希望者にも先行投資的な奨学金制度なども必要ではないか。</p> <p>・販路拡大事業として、海外への出品など説明されていたので、理解することができた。特にメロンは、人気があるようで(おそらく値段は高いと思うが)完売したことは今後の弾みとなるものと思われる。</p> <p>・販路拡大支援事業と地域魅力発信事業については、市農業所得はB評価、若者移住者はA評価ですので、様々な広報PR活動やイベント参加による認知度向上の効果であったのかは定かではありませんが、結果としては一定の効果はあったと思います。しかしながら観光振興事業については、観光イベント入込客数や大竹海岸海水浴場等入込客数が伸び悩んでいますので、取り組み強化は必要と考えます。</p> <p>・本事業が直接的に関わる基本目標1「しごとの創生」のKPIが75%超で順調と評価され、事業の有効性が示されました。中でも重点項目「農業のブランド力の向上と流通促進戦略」は大半がA評価(目標達成)となり、事業効果が見られました。錦田市まち・ひと・しごと創生の鍵の一つとして、地域の基幹産業である農畜水産業や新たな加工食品の魅力を広く発信し、認知度を高めていくことが挙げられます。そうした観点から見ると、「農産物関連商品のスマセディアへの取り上げ回数」は目標値の年30回を大幅に上回る年320回に上り、「農産物一大産地としての認知度」は開始時から2倍以上に急拡大するなど、着実に成果に結び付いたといえます。このほか、農産物の加工商品化件数やWEBマガジンの活用及びアプリ登録件数、農産物フェア開催回数など、各指標で順調が示され、本事業の効果をうかがわせました。</p> <p>一方、農業産出額と市の農業所得の達成状況を見ると、いずれもB評価(概ね順調)で、A評価には届きませんでした。それぞれの基準値も下回っています。ただ、事業開始時からは拡大傾向にあり、近年のコロナ禍や物価高騰等のマイナス要因の中で健闘した水準といえるのではないかでしょうか。こうした外的要因もあって厳しい環境が続く中、本事業は、農畜水産業や観光業のKPI達成に有効であったと評価されます。</p> <p>・メロンの販路の拡大により、国内外に錦田市のアピールができたため。</p> <p>・近年、錦田市の農産物についてメディア等で観る機会が非常に増えたと思うのでPR活動は成功していると思います。</p> <p>・観光振興についてもイベント等に多くの集客があり、また直売所等多くの集客ができると思う。</p> <p>・国内外へPRを拡大し、錦田市の魅力をさらに広めることができた。ただ、イベント(市内の)周知はもっと発信のやり方を考えて県外の方にも来てもらえるようにした方がよいと思う。</p>	6	<p>①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)</p>	<p>・今後、多方面においてさまざまな取組を行うことが重要です。</p> <p>・未来の農業・スマート農業導入農家件数がR2からR6まで0件になっていることから、関係部局・団体と問題を深堀することだと思います。</p> <p>・達成できたからよしとするのではなく、これまでの課題や反省点等をよく分析して、更なる向上に資するよう事業を進めてください。</p> <p>・地元錦田を活発化させる、様々な取り組みが有効に働いていると感じている。歩みを止めれば、そこで終わってしまうので、次々に新たなアイデアで事業拡大をしなければと思う。また、錦田には最大の観光資源である海があり、この海をモチーフになにか新たな起爆剤が生まれないか? 茨城空港も近い立地であり、県外やインバウンドを狙った構想も必要ではないか。</p> <p>6</p> <p>・農業の事業承継の視点が追加できるといいと思われる。メロンなど生活ができる作物についても、生産者が減少している状況である。</p> <p>・イベント等に多くの集客ができるが市外、県外からの集客は少ないようなので市外、県外に向けたPR活動を強化して欲しい。</p> <p>・新規就農者を増やすために、農業未経験の人が農家になるためのプロセス(具体的に何をしていけばいいのか)の研修やサポートを充実して欲しい。</p>
			4	<p>②特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである(事業継続)</p>	<p>・婚活事業もイベント実施回数を増やしてもらいたい。</p> <p>・短期で飛躍的に効果が出るものではないので、引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>・様々なイベントを催されており、継続していくことで来場者も増えていくものと思われる。</p> <p>・シンガポールとタイで行った国外の販路拡大や販路拡大の為の生産者確保、スマート農業検討など、まだ検証段階で効果確認までは至っていないと思いますので、事業継続してはと考えました。観光振興事業含め、錦田市のPR活動については、比較的県内での活動はこの数年で強化されてきたと思いますが、県外者へのアピールの点で不足していると感じますので、県外者への認知度を高める為にも都内や近隣県でのPR活動を強化していった方が良いと考えます。</p> <p>4</p> <p>・本事業は、農業のブランド力向上や流通促進に貢献したものと考えます。具体的には、地域特産のメロン、イチゴ、サツマイモなど果物や野菜の新商品開発をはじめ、リーフレットの作成・配布、農産物直売所の運営、イベントや交流事業の積極的開催等により、農畜水産業の一大産地としての認知度向上や販路拡大を後押ししました。</p>
②取組事業 がKPI達成に 有効とは言え なかつた	1	<p>・本事業は、農業と観光を結びつけ、地域産業の高付加価値化や雇用創出を目指す意義ある取り組みです。市職員の皆さん手取りで取り組まれてきたことは、大いに評価できると思います。また、関係人口の創出についても、目標260人に対して502人を達成しており、一定の成果が確認できると感じます。</p> <p>一方で、観光入込客数や滞在人口率、農業産出額といった主要KPIはいずれも未達、あるいは未判明で、事業全体としてKPI達成に十分有効だったとは言いづらい印象です。過去の販路拡大事業やシティプロモーション事業でも同様の課題が見られます。海外フェアでは売り切れも出て成果があったように見えますが、輸送や渡航費用を考えると採算性は不明で、知名度や認知度向上がどの程度実現したかは資料からは判断しにくい状況です。シティプロモーション事業でも、ショート動画配信やイベント、コラボ企画は多数実施されました、「どの施策が来訪や消費につながったのか」を示すデータがなく、具体的な成果を示すことが難しいと感じます。このように、「事業を実施した」という事実はある一方で、「それによって何が変わったのか」を示すデータがまだ十分でないことが、最大の課題ではないかと思います。</p>	2	<p>③事業内容の見直し(改善)を行うべきである</p>	<p>・二十歳の集いで配布されるリーフレットについて、確かにスタートは「カッコイイ農業人」だったと思います。リーフレットの内容はわかりませんが、若い人たちが魅力を感じる内容でなければ意味がないと思う。こんなことで成功した、このやり方で稼いでいるなど、具体例の方がわかりやすく伝わると思う。</p> <p>・スマート農業について、大規模農家向けのものではなく、小規模でもできる技術の提案や補助を行ってほしい。当農園では、メロン栽培でスマホと連動している観測器を使用しているが、1機が7~8万円ほどするためすべてのハウスに設置できない。このような機器もスマート農業の1つに入るのでは?</p> <p>・農業農産物を活用した観光コンテンツの創出や地域ブランドの強化は、地域の持続的な発展を考える上で意義のある取り組みだと思いますので、中止すべきではないと感じています。ただ、主要KPIの未達や効果検証の不十分さを踏まえると、現行の進め方では目標達成はやや難しいのではないかと思います。今後は、次の点を意識した事業内容の見直しが必要ではないかと考えます。</p> <p>【データ分析基盤の整備】 施策の成果をより客観的に把握できるよう、事前に指標やデータ収集の方法を設計し、実施後に効果を確認できる仕組みを整えると良いかと思います。「何を目的として」「どの施策を行って」「それがどの数値にどう反映されたか」を追える体制を作ることが大切ではないでしょうか。</p> <p>【費用対効果の明確化】 海外フェアやプロモーション事業の例を見ると、費用をかけた割に成果が不明瞭なケースもありました。限られた予算をより効率的に活用するために、コストと成果を比較できる評価手法を導入することを検討すると良さそうです。</p> <p>【ターゲットに即した戦略の再設計】 若者や女性をターゲットとする場合、すでに外部コンサルの支援もあると思いますので、それ以外の視点として、現場での体験やサービス改善に力を入れるのが効果的だと考えます。具体的には、観光コンテンツや施設・イベントを直接体験できるプログラムを充実させる、利用者の声を反映した改善を行う、地域事業者や関係団体と連携して新しい体験価値を作り出す、といった取り組みです。また、施策の成果は現場データや参加者のフィードバックを定期的に確認して、改善に反映する仕組みを作ることも重要だと思います。</p>
無回答	0	無回答	0	無回答	0
有識者評価に対する事業担当者コメント					
<p>・市内JAや生産者等の意向を踏まえながら、年々変化する輸出先国のニーズにあつた商品の輸出に取り組み、錦田市産農産物等の更なる認知度向上・販路拡大を図りたい。また、スマート農業の普及・促進については、人手不足の解消や生産現場の省力化を目指す農業者の意向に沿いながら、最新技術の把握に努め、引き継ぎ伴奏支援してきたい。最後に、担い手確保に向けた取り組みについては、錦田市に合ったより効果的な取り組みを展開できるよう検討を重ね、新規就農者等に錦田市が選ばれるように努めていきたい。</p> <p>・地域魅力発信事業については、本市の知名度向上に一定の効果を上げたと考えられることから、より効果的な手法を模索し、今後も継続して実施を図りたい。また、観光イベントにおいては、より当市の魅力を発信できるよう、開催時期の検討や、市外・県外向けのPR・告知を推進し、観光客の増大につなげていきたい。</p> <p>・錦田市の観光振興については、一般社団法人錦田市観光物産協会と連携しながら、地域資源を活用した観光施策を開発・展開し、各種イベント・SNS等での情報発信によるPRなどをすることで観光誘客を図っていく。</p> <p>・今後の事業実施においては、事業の成果が明確化できるように各種データ集計方法を模索し、事業の効果が目標値であるKPIと確実に比較・分析できるように目標設定を図りたい。</p>					